

検査受託中止のご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご愛顧を賜り、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。
この度、下記の外部委託検査項目について、受託中止の案内がありましたのでお知らせいたします。
先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。
今後とも当検査センターをご利用くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

●最終受託日：令和4年11月30日（水）

●受託中止対象項目

項目No	項目名	中止理由	代替項目
2364	17-KS7 分画	測定試薬の終売	代替項目は ありません (関連項目を次頁 以降に掲載)
2659	麻疹ウイルス (PA) ワクチン ※ワクチン接種を目的としたウイルス抗体検査		
692	ASK (抗ストレプトキナーゼ抗体)		
804	抗甲状腺サイログロブリン抗体 (サイロイドテスト)		
805	抗甲状腺マイクロゾーム抗体 (マイクロゾームテスト)		

なお、ご不明な点がありましたら下記にご連絡ください。

(担当：検査課 中田、山口、朝川 検査室 直通電話番号076-239-3832)

【関連項目】

◆麻疹 I g G

麻疹ウイルスはヒトの麻疹(はしか：measles)の原因ウイルスである。麻疹ウイルスは患者の咳の飛沫、鼻汁などを介して健常人の気道や鼻粘膜に感染する。ウイルスの潜伏期は約 10 日である。麻疹に罹患すると微熱、咳、鼻炎、結膜炎、高熱の順で臨床症状が現れる(前駆期)。この期間が数日続いたのち発疹が生じる(発疹期)。発疹期は約 5 日間続き、回復へと向かう(回復期)。特に前駆期の終わりに口腔粘膜にみられるコプリック斑は麻疹に特徴的である。

臨床上麻疹に類似する猩紅熱、風疹、突発性発疹などとの区別が困難な場合、また気管支炎、肺炎、中耳炎などの合併症、さらに麻疹ウイルスによる持続感染症としての麻疹後脳炎、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)などが疑われる場合には血清診断が必要である。

血清学的診断として麻疹の急性期と回復期の血清について種々の方法により麻疹抗体価を測定し、両者の間で有意の値の上昇がみられれば、麻疹罹患を確診する。また、中枢神経系疾患の場合、EIA 法 IgG 捕捉法による髄液中の局所抗体の証明が、また感染初期の血中抗体検査は EIA 法 IgM が有用であり、ワクチン接種後の抗体チェックには 6-8 週間後に EIA 法 IgG が用いられる。抗原の検出にはウイルス分離と PCR 法を用いた遺伝子解析なども有用である。

【検査要項】

項目 No	2585		
項目名	麻疹 I g G		
JLAC10 コード	5F431-1431-023-023		
検体必要量	血清 0.2mL		
容器	AO 汎用血液真空採血管(分離剤入り)		
保存方法	冷蔵		
所要日数	3~5 日		
検査方法	E I A 法		
基準値	2.0 未満 陰性		
ウイルス EIA 判定基準	[判定]	[E I A 価]	
	—	2.0 未満	
	±	2.0~3.9	
	+	4.0 以上	
保険点数/判断料	206 点/144 点(免疫学的検査)		

◆麻疹 IgG 抗体価と必要予防接種回数(予防接種の記録がない場合)

	あと 2 回の予防接種 が必要	あと 1 回の予防接種が必要		今すぐの予防接種は 不要
判定	(-)	(±)	(+)	(+)
EIA 価	2.0 未満	2.0~3.9	4.0~15.9	16.0 以上

※参考文献：医療関係者のためのワクチンガイドライン第 3 版 日本環境感染学会 2020

◆ASO定量（抗ストレプトリジン-O価定量）

抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)は、β溶血性連鎖球菌(溶連菌)のうち、A群、C群、G群が産生する代表的な菌体外産生物質である溶血毒素(streptolysin-o)に対する抗体で、溶連菌感染症で上昇する。このうちA群溶連菌(化膿性連鎖球菌 streptococcus pyogenes)は、代表的な原因菌で年齢、感染経路によって急性咽頭炎、扁桃炎などの上気道感染、猩紅熱、とびひなどの皮膚化膿性疾患、丹毒、骨髄炎、敗血症など多彩な病態を引き起こす。強い抗原性のため中和抗体であるASOが作られやすいことから、ASO抗体価を測定することにより、一連の溶連菌感染症の診断に有用である。

【検査要項】

項目 No	691
項目名	ASO定量
JLAC10コード	5E035-0000-023-062
検体必要量	血清 0.6mL
容器	AO汎用血液真空採血管(分離剤入り)
保存方法	冷蔵
所要日数	3~5日
検査方法	ラテックス凝集免疫法
基準値	239以下 (IU/mL)
保険点数/判断料	15点/144点(免疫学的検査)

◆抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)

自己免疫性甲状腺疾患であるバセドウ病や橋本病の患者血清中に多く存在する抗マイクロソーム抗体は、甲状腺マイクロソーム分画の甲状腺ペルオキシダーゼ(TPO: thyroid peroxidase)に対する抗体であることがわかり、抗TPO抗体と称するようになりました。

抗TPO抗体は、甲状腺細胞に対する細胞障害作用を有し、自己免疫性甲状腺疾患が疑われる場合に測定されます。甲状腺組織の崩壊に伴う腫大(甲状腺腫)がみられ、抗TPO抗体陽性の場合には、バセドウ病や橋本病を考慮する必要があるため、またこれらの疾患の治療経過観察にも有用であると評価されています。

【検査要項】

項目 No	876
項目名	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
JLAC10コード	5G285-0000-023-052
検体必要量	血清 0.5mL
容器	AO汎用血液真空採血管(分離剤入り)
保存方法	冷蔵
所要日数	3~5日
検査方法	CLEIA
基準値(単位)	3.3未満 (IU/mL)
報告範囲	1.0未満、1.0~99900000
保険点数/判断料	142点/144点(免疫学的検査)

◆抗サイログロブリン抗体

甲状腺疾患では、各種の甲状腺特有抗原と反応する臓器特異性の自己抗体が検出されることがあります。抗サイログロブリン抗体は、甲状腺濾胞内コロイド成分であるサイログロブリンと反応する自己抗体です。免疫グロブリンクラスのIgG抗体が主ですが、IgA、IgM抗体も認められます。

特に、免疫性甲状腺疾患である橋本病患者において本抗体の陽性率が高く、抗体価は広く分布します。バセドウ病患者においても本抗体は陽性を示しますが、抗体価は橋本病に比べて低い場合が多いです。よって、抗サイログロブリン抗体の測定は自己免疫性甲状腺疾患の診断および鑑別に有用です。

【検査要項】

項目No	877
項目名	抗サイログロブリン抗体
JLAC10コード	5G290-0000-023-052-01
検体必要量	血清 0.5mL
容器	AO 汎用血液真空採血管(分離剤入り)
保存方法	冷蔵
所要日数	3~5日
検査方法	CLEIA
基準値(単位)	19.3未満 (IU/mL)
報告範囲	10.0未満、10.0~99900000
保険点数/判断料	140点/144点(免疫学的検査)

●参考文献

(抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体と抗サイログロブリン抗体)

矢野 美沙紀, 他: 医学と薬学 77(5):793~804, 2020. (検査方法参考文献)

戸井田 晋, 他: ホルモンと臨床 43(11):1107~1115, 1995. (臨床的意義参考文献)